

共同薬局だより ～そよかぜ～



特集：溶連菌感染症

しばらくご無沙汰していた「そよかぜ」ですが、疾患特集号を随時更新する形で復活します。今後ともどうぞよろしくお祈いします。

(溶連菌感染症とは?)

溶連菌は、正式には A 群 β -溶血性連鎖球菌といいます。感染の仕方には、飛沫感染と皮膚からの接触感染があります。溶連菌感染には主に次のような種類があります。



(1) 咽頭炎や扁桃腺炎 (2) とびひ。ここでは主に (1) の咽頭炎・扁桃腺炎について述べます。

(どんな症状ですか?)

溶連菌の咽頭炎では、潜伏期はおおよそ 2~5 日です。主に 2~10 歳頃に多く(ピークは 5~10 歳頃)、成人には少ないといわれています。季節的には、12~3 月に一番多く、7~9 月が一番少ない疾患です。

(主な症状は?)



(1) 咽頭炎・扁桃腺炎

発熱(90%以上)、のどが痛い、のどが赤い、扁桃腺が白いといった症状があります。

(2) 口蓋の点状紅斑・点状出血斑

口の中の口蓋垂(のどちんこ)を、中心に赤い小さな点状の出血斑が認められます。

(3) イチゴ舌

舌の表面が、イチゴの表面のようになります。(発病 2~4 日目)

(4) 全身発疹

顔や股のところに、小さい赤い発疹が多数出現します。(発病 1~2 日目)

かゆみを伴うことも多いようです。(猩紅熱)

(5) 皮膚落屑

いろいろな症状が消えた後(5~6 日目以降)に手や足の指先から皮がめくれてきます。

(6) その他の症状

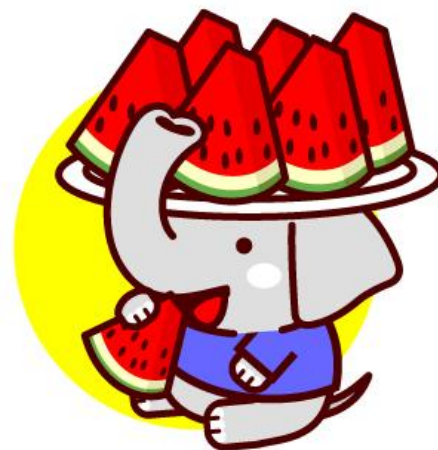
頭痛・だるさなどの発熱に伴う症状などが認められますが、咳・鼻水などの一般的なかぜの症状は、他の感染症に較べると少ないようです。嘔吐を伴うことはありますが、下痢はあまりありません。(これらの症状は、すべて出るわけではありません。特に1～3歳ぐらいでは症状が少ないこともよくあります。)

(溶連菌感染の診断は？合併症は？)

(1)A群溶血性連鎖球菌迅速診断キット(2)咽頭培養検査(3)血液検査で行ないます。合併症は、急性腎炎(溶連菌感染後、3～4週後に発生することが多い。突然、むくむ、尿が出なくなる、血尿や蛋白尿が出るなどの症状)、リウマチ熱(ほとんどありません)、血管性紫斑病(溶連菌感染などの感染後や予防接種などの後に、出血斑などの発疹・激しい腹痛関節痛・浮腫などを認めます。引き続き紫斑病性腎炎を起こすこともあります。)などがあります。

(溶連菌感染の治療は？)

溶連菌感染そのものは、普通の抗生物質を2～3日飲めば、すぐ治まりますが、急性腎炎・リウマチ熱・血管性紫斑病などの合併症を防ぐために、10～14日間、抗生物質を飲むことが勧められています。(どの程度抗生物質を飲めば、どの程度合併症を防ぐことが出来るかは、はっきりしませんが、実際にこれらの病気が最近あまりみられないことから考えて、それなりに有効であると考えられます)抗生物質を1～2日服用し、発熱や発疹が治まって元気があれば登校・登園してもかまいません。学校で治癒証明書が必要という場合は医療機関で有料で出してもらえます。



(家族に対する治療は？)

溶連菌と、はっきりと診断された場合には、その家族全員にも抗生物質を服用するのが、おそらく一番理想的でしょう。しかし、現実的には症状がある人や、検査の陽性の人は、抗生物質を服用することが多いようです。

(溶連菌感染は、何度もなりますか？)

A群β-溶血性連鎖球菌にも、いろいろなタイプがあります。日本では、だいたい4～5種類のタイプがあり、4～5回は感染する可能性が言われています。

参考資料) 日本医師会「溶連菌感染症」解説、国立感染症研究所 HP、しばさき小児科 HP